





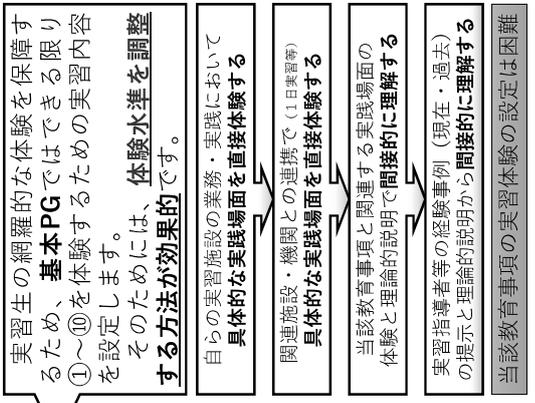
#### ④ 「教育のねらい（国通知）」を達成できるプログラム

**教育のねらい**  
**（ソーシャルワーク実習の教育内容：国通知）**  
 ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づき支援を行うための実践能力を養う。  
 ① 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。  
 ② 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォアーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。  
 ③ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。  
 ④ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関・地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

ソーシャルワーク実習を通して、これらの「教育のねらい」を達成できるプログラムを作成することが求められます。  
 具体的には以下の内容を意識したプログラム作成を行います。  
 ① 実践と理論を結び付けるための実践体験とスーパービジョンの循環的実施  
 ② クライエント（以下、CL）や地域と直接関わる機会の設定  
 ③ CLに対する支援計画作成・実施・評価の一連の支援過程の体験（個別PG：180時間実習）  
 ④ 「地域社会」という視点から施設・機関の役割を理解する機会の設定  
 ⑤ 多職種・他機関・地域住民との具体的な連携場面や協働事業に参画する機会の設定

#### ⑤ 「教育に含むべき事項（国通知）」を実施・体験できるプログラム

**教育に含むべき事項**  
**（ソーシャルワーク実習の教育内容（国通知））**  
 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成  
 ① 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成把握、支援計画の作成と実施及び評価  
 ② 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価  
 ③ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解  
 ④ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ  
 ⑤ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解  
 ⑥ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践  
 ⑦ 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解  
 ⑧ ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解  
 ⑨ アウトリーチ 2 ネットワーキング 3 コーディネーション  
 ⑩ 1 ネゴエーション 5 ファシリテーション  
 4 アゴエーション 6 プレゼンテーション 7 ソーシャルアクション



## 2. 実習プログラミンングの方法

- ① 基本実習プログラミンングの実習プログラミンング
- ② 個別実習プログラミンングの実習プログラミンング

### 【再掲】基本実習プログラミンングの概要

ソーシャルワーク実習 基本実習プログラミンングシート（様式）

実施期間	実施場所	実施内容	実施担当者	実施回数	実施時間	実施回数	実施時間
10月1日～10月31日							

基本PGのプログラミンングシートです。このプログラミンングシートに記入して完成したものが当該実習施設の「基本実習プログラミンング」になります（個別PGを作成するためのメニュー表的位置づけ）。  
 この基本PGを作成するために、プログラミンングシートに記入していく過程を基本PGの実習プログラミンングといいます。

#### ■ 誰が作るのか？

基本PGの作成は、**実習指導者を中心とした実習施設の職員がチームとなって取り組めます**。また作成したプログラミンングの実行性を担保するためには、作成チームのメンバーだけでなく、実習施設や関連施設等の関係者からもその内容に合意を得ることが必要です。

#### ■ どのように作るのか？

基本PGのプログラミンングシートを用いて作成し、完成版には関係者の合意を得ます。具体的な作成方法を以下で説明していきます。



# 基本実習プログラム作成

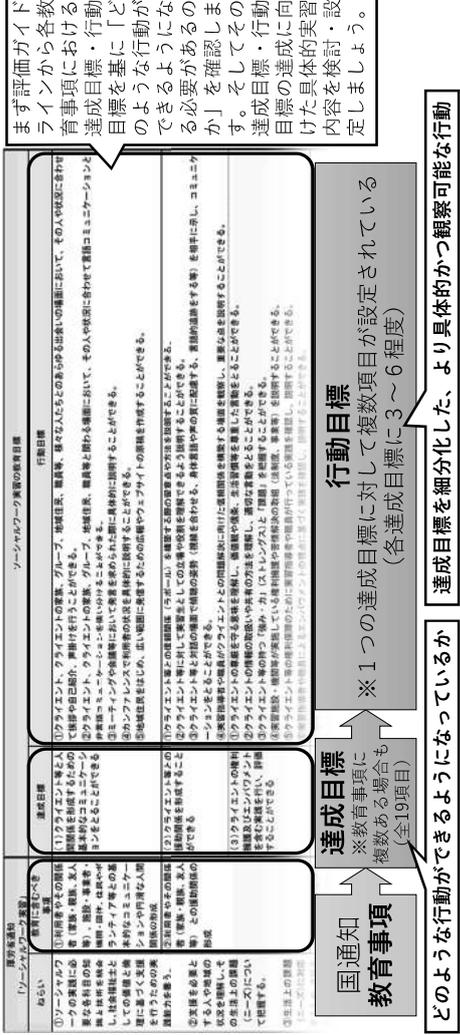
ソーシャルワーク実習 基本実習プログラム プログラムミングシート (案) 様式

実習担当者:	作成者(ソート):	作成日: 2022年 月 日
ソートワーク実習 (国通知)	学生に求める 学習目標	目標上の重点事項 学習する資料・ 事例
達成目標 (評価ガイドライン) 評価項目を明示し、 評価方法を記載する。	達成目標 (評価ガイドライン) 評価項目を明示し、 評価方法を記載する。	達成目標 (評価ガイドライン) 評価項目を明示し、 評価方法を記載する。
① 各領域における実習活動の 内容・実施方法 ② 各領域における実習活動の 内容・実施方法 ③ 各領域における実習活動の 内容・実施方法	① 各領域における実習活動の 内容・実施方法 ② 各領域における実習活動の 内容・実施方法 ③ 各領域における実習活動の 内容・実施方法	① 各領域における実習活動の 内容・実施方法 ② 各領域における実習活動の 内容・実施方法 ③ 各領域における実習活動の 内容・実施方法

- 具体的実習内容の設定 (※実施可能水準の設定も連動して実施) 各教育事項を学ぶための具体的実習内容を検討する際のポイントは以下の5点です。
- 評価ガイドライン (ソ教連) における達成目標・行動目標の達成に向けた内容を設定する。
  - 何を行うのかイメージできるように「具体的な体験内容」を記述する
  - 体験水準を調整することで、できる限り全教育事項の具体的実習内容を設定する
  - 実践のプロセスだけでなく実習生の理解度も踏まえた段階的な具体的実習内容を設定する
  - 教育事項同士の関連性を踏まえて具体的実習内容を設定する

# 基本PG作成：具体的実習内容の設定

- 評価ガイドラインの達成目標・行動目標の達成に向けた内容を設定する
- 評価ガイドラインの構成



※1つの達成目標に対して複数項目が設定されている (各達成目標に3〜6程度)

達成目標を細分化した、より具体的なかつ観察可能な行動

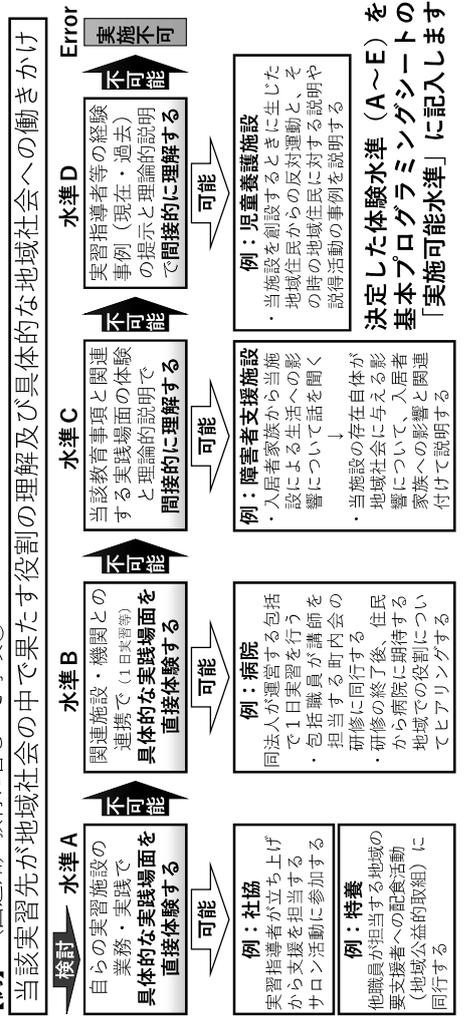
# 基本PG作成：具体的実習内容の設定

- 何を行うのかイメージできるように「具体的な体験内容」を記述する

NG例	理由と修正ポイント	受動的体験 (※能動的要素含)	能動的体験
・事業所の法令根拠と実態を知る ・利用者のニーズを理解する	「知る」「理解する」は体験ではなく目的です。 ⇒できるだけ具体的に「何をするのか」を書きましょう。 例：事業所の法令根拠について実習指導者より講話を行う 例：利用者のニーズ理解に向けて利用者との面談に同席する	・実習指導者や他職員による説明・講話 ・資料(支援記録・経営資料・報告書等)の閲覧 ・実習指導者や他職員の業務への同行 ・場面(クライアント(以下、CL)との面接、委員会や会議、地域活動等)への同席・見学・観察 ・実習指導者とのロールプレイ(制度説明・面接)実施 ・CLとの面接の実施(記録やプロセスレコード作成含)	・CLや地域住民等との交流・コミュニケーション ・資料(支援記録・報告書等)の作成 ・他職員、CL、地域住民等へのヒアリング ・場面(委員会・会議・地域活動等)への参加 ・イベント等の企画・運営・実施 ・CLへのアセスメント・支援計画作成・実施 ・支援結果や実習での学びの報告(発表会)

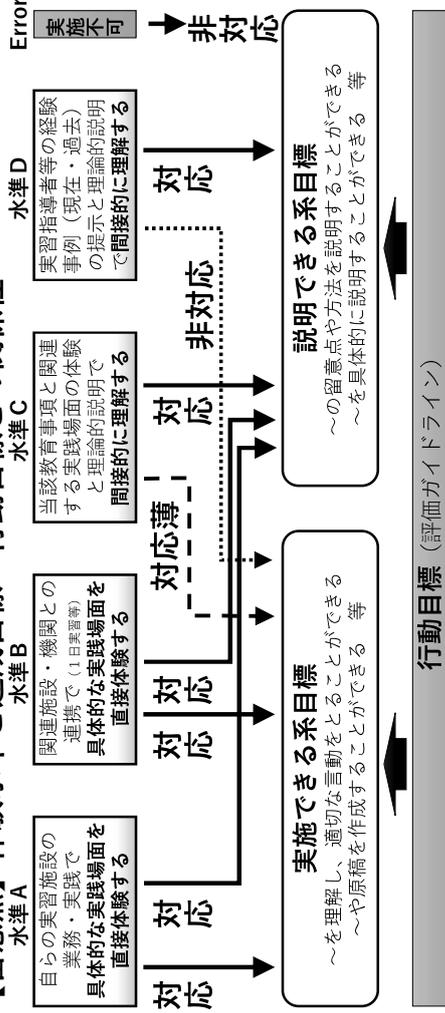
# 基本PG作成：具体的実習内容の設定

- 体験水準を調整することで、できる限り全教育事項の具体的実習内容を設定する



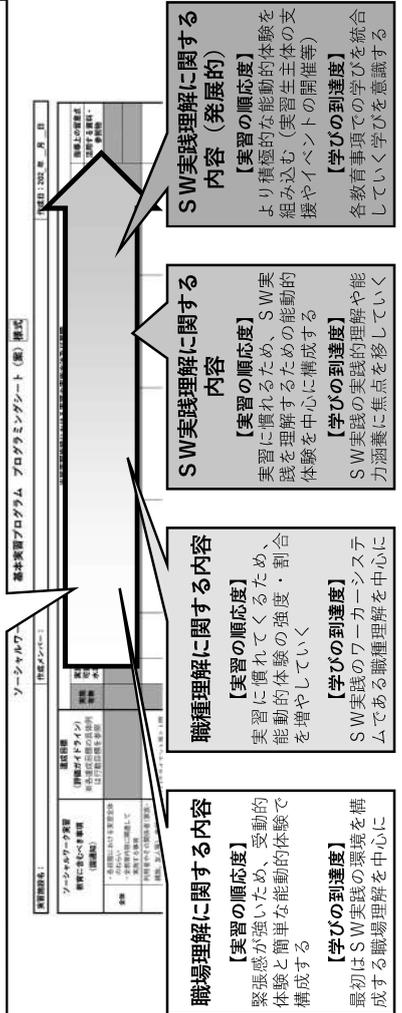
## 基本PG作成：具体的実習内容の設定

(3) 体験水準を調整することで、できる限り全教育事項の具体的実習内容を設定する  
【留意点】体験水準と達成目標・行動目標との関係性



## 基本PG作成：具体的実習内容の設定

(4) 実践プロセスと実習生の理解度を踏まえて段階的な具体的実習内容を設定する  
各教育事項の理解には、実践のプロセスに合わせて複数の体験内容を段階的に設定することが必要です。その際、実習生の慣れ(順応度)、実習における学びの到達度も合わせて考慮することで、より効果的なプログラムを組むことが可能になります。

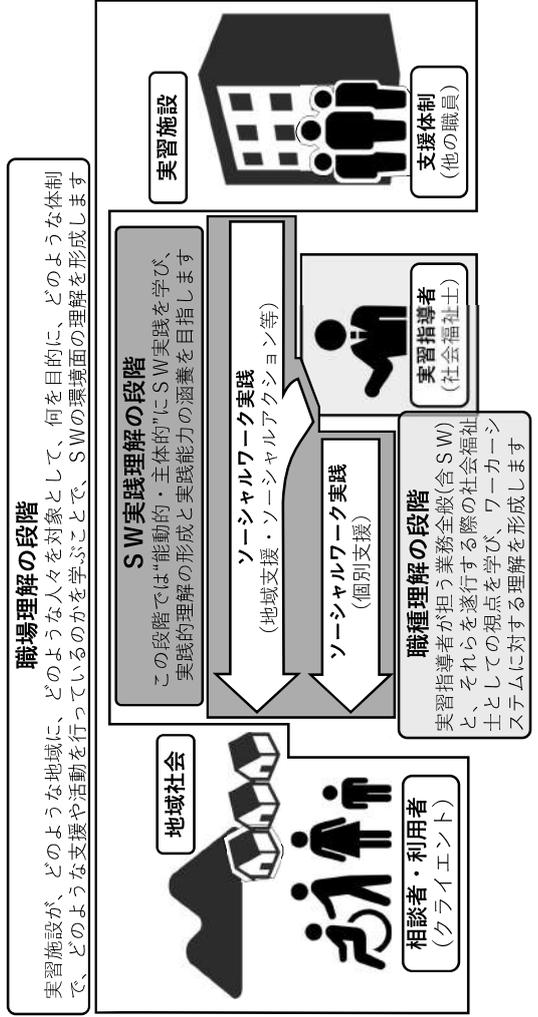


## 各教育事項に対する体験水準の検討《ミニワーク》

各教育事項に対する実施可能な水準を検討して、それぞれA～Eを記入してください。

教育事項	体験水準
① 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成	
② 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成	
③ 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価	
④ 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価	
⑤ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解	
⑥ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ	
⑦ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解	
⑧ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)	
⑨ 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	
⑩ ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 1 アウトリーチ ( ) 3 コーディネーション ( ) 2 ネットワーキング ( ) 6 プレゼンテーション ( ) 4 ネゴシエーション ( ) 5 ファシリテーション ( ) 7 ソーシャルアクション ( )	1～7の( )にそれぞれ記入し、まじよう

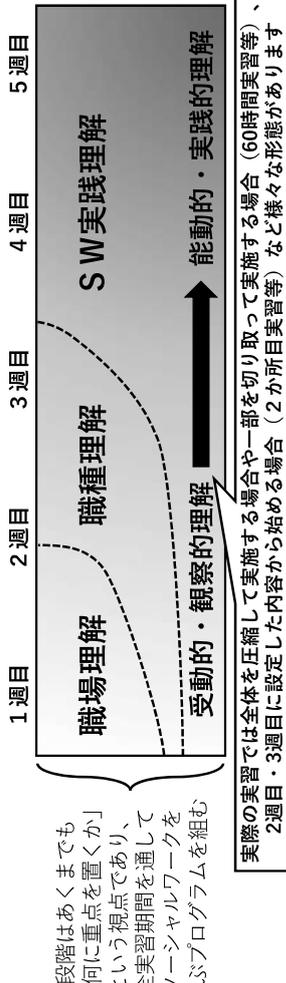
## ソーシャルワークと段階的な具体的実習内容との関係



## 段階的な具体的実習内容の設定における留意点

実習生の実習慣れや理解の到達度に対応するために、職場理解の段階、職種理解の段階、SW実践理解の段階という学びの段階を踏まえて実習PGを作成する方法を説明しました。

ここでの留意点は、ソーシャルワーク実習の学びの焦点は実習期間全てを通してソーシャルワークであるということです。実習プログラムにおける学びの焦点は常にソーシャルワークにあり、理解しやすくするために段階を踏んだ実習内容を設定していることを忘れないようにしましょう。



実際の実習では全体を圧縮して実施する場合や一部を切り取って実施する場合（60時間実習等）、2週目・3週目に設定した内容から始める場合（2か所目実習等）など様々な形態があります。

## 基本PG作成：具体的実習内容の設定

(4) 実践プロセスと実習生の理解度を踏まえて段階的な具体的実習内容を設定する【例】（国通知）教育に含むべき事項⑥

当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ

例：社協			
実習指導者が立ち上げから支援を担当するサロン活動に参加する場合			
職場理解に関する内容	職種理解に関する内容	SW実践理解に関する内容	SW実践理解に関する内容
・各町内会のキーパーソン、住民気質等を説明する ・町内会の会合に同行する	・実習指導者のサロン参加者との関わり方を観察する ・面接技法の活用についてのSV	・サロン活動立ち上げのきっかけと経過を説明する ・サロンの催しを企画する	・実習生が企画したサロンの催しを実施する ・実施結果を報告書にまとめる
例：特養			
他職員が担当する地域の要支援者への配食活動（地域公益的取組）に同行する場合			
職場理解に関する内容	職種理解に関する内容	SW実践理解に関する内容	SW実践理解に関する内容
・配食活動を行っている地域の概況について説明する ・公益的取組についての講話	・実習指導者（生活福祉課）の実践が公益的取組に与える影響を担当職員にヒアリング	・配食活動に同行し、サービス利用者から生活上の困りごとを聞き取る	・地域住民の困りごとから、今後法人が取り組むべき公益的取組の企画書を作成

## 基本PG作成：具体的実習内容の設定

(5) 教育事項同士の関連性を踏まえて具体的実習内容を設定する

「段階的な具体的実習内容の設定」をシートの横軸の流れについて説明したものとすれば、「教育事項同士の関連性を踏まえた具体的実習内容の設定」はシートの縦軸の縦軸の関連性についての説明といえます。

教育事項同士の関連性を踏まえた具体的実習内容設定のポイントとしては、以下の2点があります。

- 1つの具体的実習内容が複数の教育事項に共通して必要・有効な場合があることを意識して具体的実習内容を設定する。
- 教育のねらい③「～支援計画の作成、実施及びその評価を行う」の達成に向けて、複数の教育事項を関連付けながら具体的実習内容を設定することによって、一連の支援の流れを学べるようにする。

※見やすくするためにプログラミングシート（案）を一部改題しています

教育事項	1	2	3	4	5
1. ソーシャルワークの基礎知識の習得	○	○	○	○	○
2. ソーシャルワークの現場での実践力の向上	○	○	○	○	○
3. ソーシャルワークの専門知識の習得	○	○	○	○	○
4. ソーシャルワークの専門スキルの習得	○	○	○	○	○
5. ソーシャルワークの専門マインドの習得	○	○	○	○	○
6. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの統合	○	○	○	○	○
7. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの応用	○	○	○	○	○
8. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
9. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
10. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
11. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
12. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
13. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
14. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
15. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
16. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
17. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
18. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
19. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
20. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○

## 基本PG作成：具体的実習内容の設定

(5) 教育事項同士の関連性を踏まえて具体的実習内容を設定する

1つ目のポイントである「具体的実習内容が複数の教育事項に共通して必要・有効な場合があることを意識して具体的実習内容を設定する」を確認してみましょう。

例：社協	例：特養
1 週目 職場理解の段階 ・各町内会のキーパーソン、住民気質等を説明する ・町内会の会合に同行する	1 週目 職場理解の段階 ・配食活動を行っている地域の概況について説明する ・公益的取組についての講話
2 週目 職種理解の段階 ・実習指導者のサロン参加者との関わり方を観察する ・面接技法の活用についてのSV	2 週目 職種理解の段階 ・実習指導者（生活福祉課）の実践が公益的取組に与える影響を担当職員にヒアリング
3 週目 SW実践理解の段階 ・実習生が企画したサロンの催しを実施する ・実施結果を報告書にまとめる	3 週目 SW実践理解の段階 ・地域住民の困りごとから、今後法人が取り組むべき公益的取組の企画書を作成

先ほどは「⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ」の職場理解の段階に設定しました。この具体的実習内容が必要・効果的な教育事項が他にもないか確認します。

## 基本PG作成：具体的実習内容の設定

(5) 教育事項同士の関連性を踏まえて具体的実習内容を設定する

「段階的な具体的実習内容の設定」をシートの横軸の流れについて説明したものとすれば、「教育事項同士の関連性を踏まえた具体的実習内容の設定」はシートの縦軸の縦軸の関連性についての説明といえます。

教育事項同士の関連性を踏まえた具体的実習内容設定のポイントとしては、以下の2点があります。

- 1つの具体的実習内容が複数の教育事項に共通して必要・有効な場合があることを意識して具体的実習内容を設定する。
- 教育のねらい③「～支援計画の作成、実施及びその評価を行う」の達成に向けて、複数の教育事項を関連付けながら具体的実習内容を設定することによって、一連の支援の流れを学べるようにする。

※見やすくするためにプログラミングシート（案）を一部改題しています

教育事項	1	2	3	4	5
1. ソーシャルワークの基礎知識の習得	○	○	○	○	○
2. ソーシャルワークの現場での実践力の向上	○	○	○	○	○
3. ソーシャルワークの専門知識の習得	○	○	○	○	○
4. ソーシャルワークの専門スキルの習得	○	○	○	○	○
5. ソーシャルワークの専門マインドの習得	○	○	○	○	○
6. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの統合	○	○	○	○	○
7. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの応用	○	○	○	○	○
8. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
9. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
10. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
11. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
12. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
13. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
14. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
15. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
16. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
17. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
18. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
19. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○
20. ソーシャルワークの専門知識・スキル・マインドの活用	○	○	○	○	○

# 各教育事項の体験開始時期の検討《ミニワーク》

実習生の実習慣れ（順応）、学びの到達度、各教育事項の関連性を考慮した場合、それぞれ何週目から各教育事項の具体的実習内容を始めるのが適当なのかを検討し、検討結果を記入してください。

教育事項		開始時期
①	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成	週目
②	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成	週目
③	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価	週目
④	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価	週目
⑤	多職種連携及びチームアプローチの実践的理解	週目
⑥	当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ	週目
⑦	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解	週目
⑧	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実態（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）	週目
⑨	社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	週目
⑩	ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 1 アウトリーチ（週目） 2 ネットワーキング（週目） 3 コーディネーション（週目） 4 ネゴシエーション（週目） 5 ファシリテーション（週目） 6 プレゼンテーション（週目） 7 ソーシャルアクション（週目）	1～7の（ ）にそれぞれ記入し、それぞれ入れましよう

# 基本実習プログラムミングシートの作成

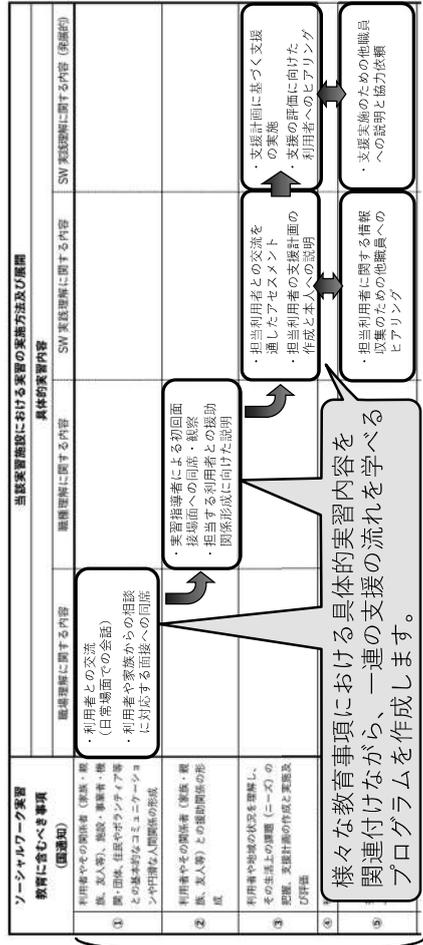
・実習生に求める事前学習：具体的かつ実行可能な内容を設定

事前学習のカテゴリー	具体例
・実習施設に関連する法制度の理解（目的や支援体制）	・社会福祉協議会の法的根拠とそこで規定される目的を調べる（福祉六法、e-gov等） ・介護保険制度の概要についての学習（教科書並びに市の介護保険パンフ等参照）
・実習施設が所在する地域（市町村等）の理解	・市の人口・高齢化率・自治体組織率を調べる（市のホームページを参照） ・特養の入居条件（制度的原則的）とその人々の身体的・認知的な特徴を調べる（教科書並びに市の介護保険パンフ等参照）
・実習施設が対象とする人々（クライエント）の理解	・実習施設である特養の法人理念、入居定員数、配置している専門職と職員数、サービス特色について調べる（HPや特養パンフ等参照）
・ソーシャルワーク実践の理論的な理解	・アウトリーチの理論と具体例を調べる（教科書等参照）

参照物を併記すると実習生が取り組みやすくなります

# 基本PG作成：具体的実習内容の設定

(5) 教育事項同士の関連性を踏まえて具体的実習内容を設定する  
教育のねらい「③～支援計画の作成、実施及びその評価を行う」の達成に向けて、複数の教育事項を関連付けながら具体的実習内容を設定する方法について確認します（一例）。



※見やすくするためにプログラミングシート（案）を一部改編しています

教育事項①④⑥が支援計画作成と実施という一連の支援の体験に関連しやすくなります

# 基本実習プログラムミングシートの作成

ソーシャルワーク実習 基本実習プログラム ミングシート（案）様式

実習期間：作成日：202 年 月 日	事前学習		当該実習期間における実習の業務内容及び履修	
	実施	履修	履修事項に関する内容	SW 実践（実習）に関する内容
1	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
2	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
3	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
4	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
5	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
6	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
7	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
8	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
9	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成
10	実施	履修	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との関係の形成

## ■実習生に求める事前学習の設定

それぞれ教育事項に関する具体的実習内容に取り組み、実習生に求められる事前学習を設定します。個別PGではこの欄は「事前学習・事前訪問」となり、事前訪問で実施する内容についても記入しますが、その内容は個別性が高くなるため基本PGではあくまでも当該教育事項に関連して求められる事前学習のみ設定します。ポイントは以下のとおりです。

・実習生に求める事前学習：具体的かつ実行可能な内容を設定する（参照物も意識する）

# 基本実習プログラム作成シート

ソーシャルワーク実習 基本実習プログラム プログラムシート (案) 様式

実習実施校名:		作成メンバー:		作成日: 202 年 月 日	
ソールワーク実習 (研修ガイドライン) ※研修実施校に提出	研修実施校における実習の業務内容及び期間	具体的実習内容	当該実習施設における実習の業務内容及び期間	SW 実践経験 (実習) に関する内容	SW 実践経験に関する内容
実習 期間	実習 場所	実習 内容	実習 内容	実習 内容	実習 内容
①					
②					
③					

## ■指導上の留意点、活用する資料・参照物の設定

それぞれを検討する際には、以下のポイントを意識しましょう。

- ・指導上の留意点：実習指導者だけでなく、関連職員に気を付けてもらいたい点も記入する
- ・活用する資料・参照物：実習生が入手・閲覧可能な一般資料と組織内部資料を設定する

# 基本実習プログラム作成シートの作成

- ・指導上の留意点：実習指導者だけでなく、関連職員に気を付けてもらいたい点も記入する  
指導上の留意点には何を書いても構いませんが、ポイントとしては実習を行う上で意識すべきこと、忘れてはいけないを記載します。具体的には担当者や実施場所、指導方法、リスクマネジメントとして利用者や実習生に配慮すべき点、スーパービジョンで確認すべき点や伝え方などが挙げられます。
- ・具体的な記載内容の例は「基本PGの具体例」を参照してください。
- ・活用する資料・参照物：実習生が入手・閲覧可能な一般資料と組織内部資料を設定する

## 一般資料のカテゴリー例

- ・社会福祉士養成の教科書
- ・社会福祉やソーシャルワークに関する専門書
- ・行政が運営する公的なHP (法制度や地域)
- ・行政が発行するパンフレット
- ・実習施設が発行する案内やパンフレット
- ・職能団体や事業者団体のHP

## 組織内部資料の例

- ・支援記録、ケース記録、カルテ
- ・事業計画書、事業報告書
- ・アクシデント・インシデント報告書
- ・引継ぎノート
- ・組織図と業務分掌表
- ・各マニュアル (事故・苦情・災害対応マニュアル等)

# 基本PG作成における養成校教員との連携

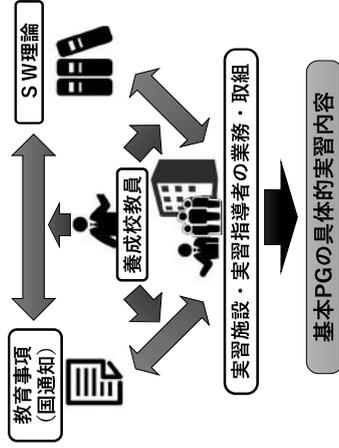
基本PG作成において最後に押さえておきたいのが「養成校教員との連携」です。以下2つの目的に向けて養成校教員との連携が有効であると考えられます。

実習を施設全体の正式な業務として位置づける

- 基本PG作成チームへの養成校教員の参画
- ・アドバイザー
- ・スーパーバイザー 等

- 養成校教員による責任者への説明・依頼
- ・チームでの基本PGの作成
- ・実習施設全体での完成版基本PGの実施

SW理論を踏まえて実習施設・実習指導者の業務・取組を具体的実習内容に落とし込む



# 基本PG作成に向けたヒント

以上、基本PG作成に向けた基本実習プログラム作成シートの記入方法について学んできました。研修を受講した皆さんが今後基本PGを作成するにあたって、最後に以下の点を確認しておきたいと思えます。

## 基本実習プログラム作成に向けたヒント

- ・最初に作成する時点で「完璧で充実した」基本PGを目指す必要はない  
(⇒全ての具体的実習内容のセルを埋める必要はありません)
- ・まずは180時間実習をするに十分な内容の基本PG作成に取り組む  
(⇒この理由については次の個別PG作成で説明します)
- ・体験水準を調整してできる限り全教育事項に関する具体的実習内容を設定する
- ・“作成⇒実習実施⇒加筆・修正⇒実習実施⇒加筆・修正”の循環で基本PGの完成度を高めていく (具体的実習内容の量と質を向上させる)

## 【再掲】 個別実習プログラムの概要

実施年度	実施期間	実施回数	実施時間	実施場所	実施内容	実施担当者	実施評価
2023年度	2023年10月1日～2024年3月31日	1回	180分	〇〇大学 〇〇学部 〇〇実習室	〇〇実習プログラムの実施	〇〇先生	〇〇

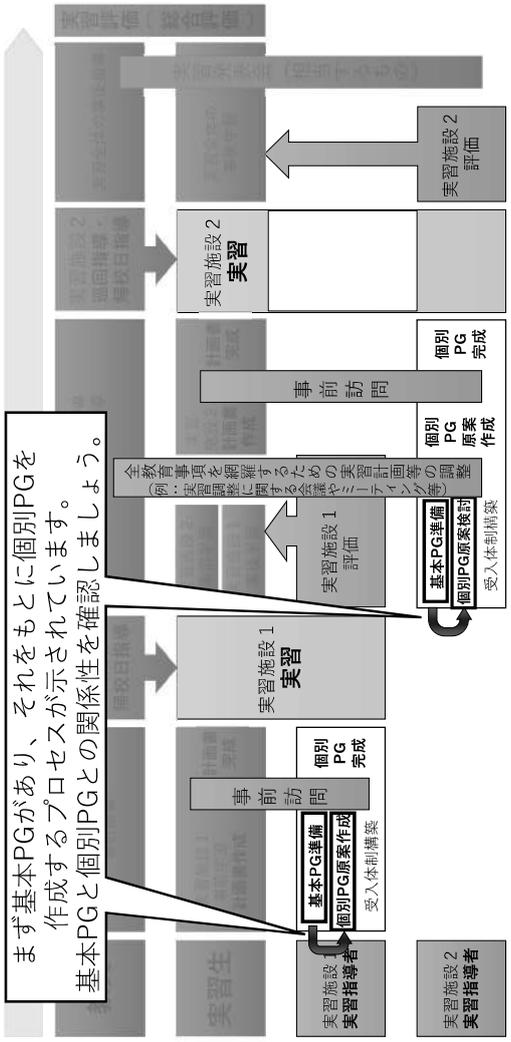
個別PGの実習プログラムの概要  
 個別PGの実習プログラムの概要  
 個別PGの実習プログラムの概要

- 誰が作るのか？  
 個別PGは実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえて作成することが国通知によって規定されています。この三者協議を踏まえて実習指導者と実習施設の職員が個別PGを作成することになります。
- どのように作るのか？  
 個別PGは各実習の多様な実施方法に対応するため、実習生ごとに作成する必要がありますが、協議前後に原案と完成版を作成するのは基本的に実習施設側（実習指導者）です。それでは、個別PGの実習プログラムの確認していきましょう。

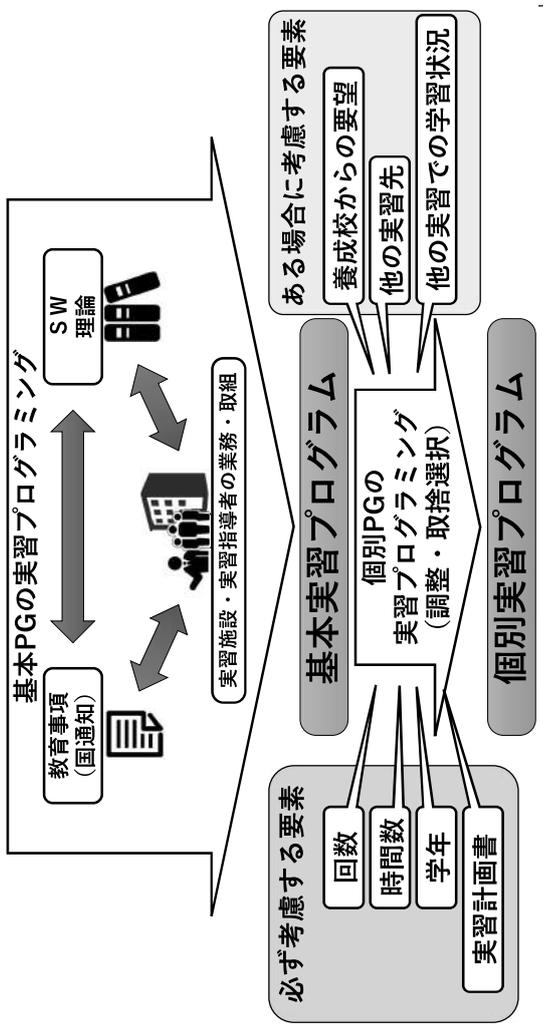
## 2. 実習プログラムの方法

- ① 基本実習プログラムの実習プログラムの方法
- ② 個別実習プログラムの実習プログラムの方法

## SW実習における個別PGの位置づけ ①

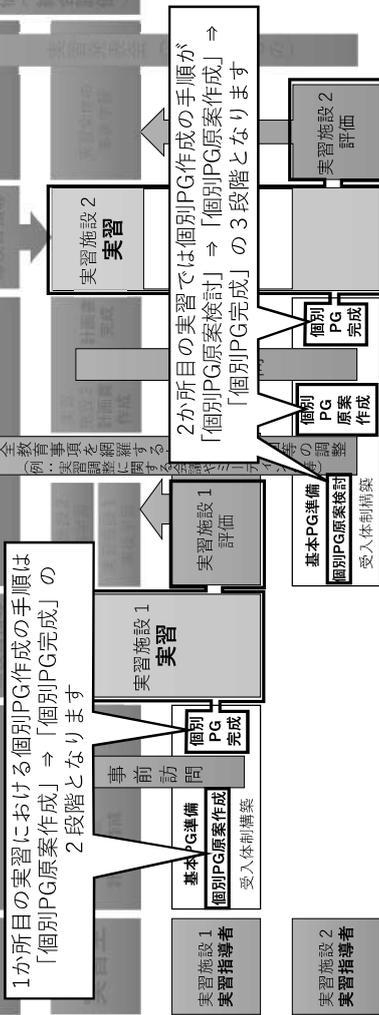


## 基本PGと個別PGとの関係性



## SW実習における個別PGの位置づけ②

ソーシャルワーク実習は、個別PGに基づいて実施されることとなります  
⇒個別PGが各実習生にとっての具体的な実習予定表



## ソーシャルワーク実習における個別PGのパターン

前スライドで確認した通り、1か所目実習と2か所目実習では個別PG作成の手順が異なります（2か所目実習の方が手順や考慮する要素が多くなる）。

また、新カリキュラムでは1か所目実習以上の実施が規定されているため、「180時間以上の実習」と「60時間以下の実習」が行われることになり、時間数によって個別PGの内容は異なります。

この2点を整理すると、以下の表のとおり個別PGには大きく4つのパターンがあることが分かります。

実習の実施回数		
	1か所目	2か所目
180時間	① 180時間（1か所目）	② 180時間（2か所目）
60時間	③ 60時間（1か所目）	④ 60時間（2か所目）

※ 実際には「210時間 + 30時間」や「180時間 + 30時間 + 30時間」等の多様なバリエーションがありますが、今回は上記4パターンについて学習します。

## 180時間の個別PG作成

まず180時間実習の個別プログラミングシートを確認してみましょう。

実習施設名:	実習指導者氏名:	実施期間: 2022年 月 日 ( ) ~ 2022年 月 日 ( )	他の:	名称:
施設名:	学名: 学年:	実習回数: 1か所目 (50分所)	時間:	実習施設:
ソーシャルワーク実習 個別実習プログラム (180時間用: 概ね150時間~180時間) プログラムシート (案) 様式				
実習施設名:	実習指導者氏名:	実施期間: 2022年 月 日 ( ) ~ 2022年 月 日 ( )	他の:	名称:
施設名:	学名: 学年:	実習回数: 1か所目 (50分所)	時間:	実習施設:
ソーシャルワーク実習 個別実習プログラム (180時間用: 概ね150時間~180時間) プログラムシート (案) 様式				
実習施設名:	実習指導者氏名:	実施期間: 2022年 月 日 ( ) ~ 2022年 月 日 ( )	他の:	名称:
施設名:	学名: 学年:	実習回数: 1か所目 (50分所)	時間:	実習施設:
ソーシャルワーク実習 個別実習プログラム (180時間用: 概ね150時間~180時間) プログラムシート (案) 様式				

### ■実習基本情報の入力

個別PGのプログラミングに取り組み、まずは基本情報を記入しましょう。

- ・実習施設名：基本PGと同じです。
- ・実習指導者氏名：主たる実習指導者が決まっている場合にはその氏名を記入します。
- ・実習期間：実習を受け入れる期間を記入します。
- ・養成校、実習生氏名、学年、実習回数、実習時間数：それぞれ受け入れられる実習生に応じて入力しましょう。
- ・他の実習施設：受け入れる実習生が行う他の実習先の情報を分かる範囲で記入します。  
1か所目の場合は2か所目が決まっておらず入力できない場合があります。

## 180時間の個別PG作成

まず180時間実習の個別プログラミングシートを確認してみましょう。

実習施設名:	実習指導者氏名:	実施期間: 2022年 月 日 ( ) ~ 2022年 月 日 ( )	他の:	名称:
施設名:	学名: 学年:	実習回数: 1か所目 (50分所)	時間:	実習施設:
ソーシャルワーク実習 個別実習プログラム (180時間用: 概ね150時間~180時間) プログラムシート (案) 様式				
実習施設名:	実習指導者氏名:	実施期間: 2022年 月 日 ( ) ~ 2022年 月 日 ( )	他の:	名称:
施設名:	学名: 学年:	実習回数: 1か所目 (50分所)	時間:	実習施設:
ソーシャルワーク実習 個別実習プログラム (180時間用: 概ね150時間~180時間) プログラムシート (案) 様式				
実習施設名:	実習指導者氏名:	実施期間: 2022年 月 日 ( ) ~ 2022年 月 日 ( )	他の:	名称:
施設名:	学名: 学年:	実習回数: 1か所目 (50分所)	時間:	実習施設:
ソーシャルワーク実習 個別実習プログラム (180時間用: 概ね150時間~180時間) プログラムシート (案) 様式				

- ・1週目：初日学習（課題）の達成度確認  
1週目振り返りのSV  
2週目振り返りのSV
- ・2週目：実習指導者への1日同行
- ・3週目：3週目振り返りのSV
- ・4週目～：支援計画・支援・評価の発表  
実習終了の挨拶回り

個別PG特有の行で、全教育事項に  
関連する具体的実習内容を記載します。  
具体的には以下のような内容です。

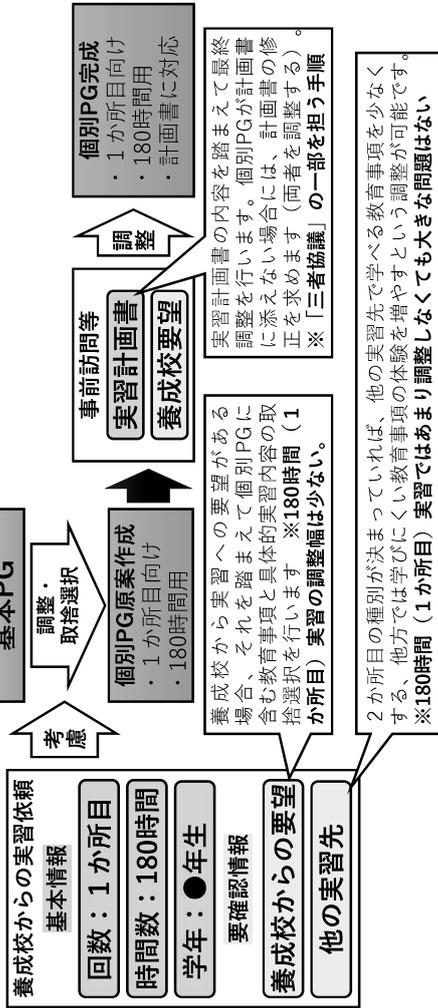
基本PGでは実習生に求める  
事前学習でしたが、個別PGで  
は事前課題に加えて事前訪問  
で実施することも記載します。  
一部の教育事項と強く関連する行  
る場合は①～④の該当する行  
に記載しますが、全教育事項  
に関連する内容であれば一行  
目の「全体」のセルに記載し  
ましょう。

基本PGのプログラミングシートに記載  
した具体的実習内容の「職場理解」か  
ら「SW実践理解」に対応しています。  
基本PGの内容をそのまま貼り付けるだ  
けではなく、実習生の実習時間、実習  
回数、学年、計画書、他の実習先の  
種別や学びの状況、養成校からの要望  
などを勘案して、基本PGの内容から  
調整・取舍選択して個別PGの具体的  
実習内容を設定します。

# 180時間（1か所目）の個別PG作成

まずは最も基本となる180時間実習（1か所目）の個別PG作成を確認します。

## ■作成手順



# 180時間（1か所目）の個別PG作成

## 1. 基本PGからの調整・取捨選択による個別PG原案作成

養成校から依頼があり、実習の基本情報を確認したら基本PGを調整・取捨選択して個別PG原案を作成します。180時間実習の個別PG作成は基本PGの完成度に大きく依拠します。

理由として、基本PGのプログラミングシートは具体的実習内容を「4週目～」まで設定していますが、180時間実習は5週目（4週と3日間：1日8時間、1週5日で計算）まであるためです。基本PGがミニマムで構成されている場合には、基本PGを調整・取捨選択するまでもなく、それがそのまま180時間実習の個別PGとなります。

### 基本実習プログラム

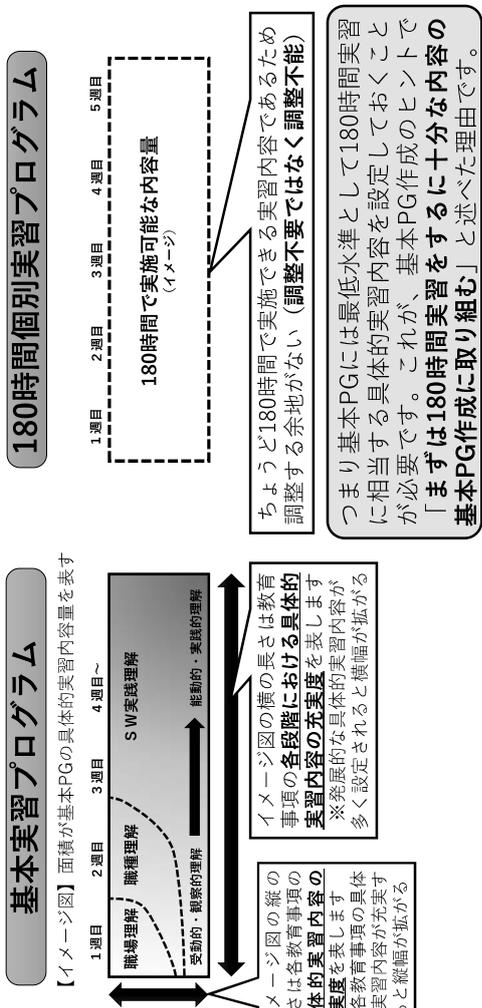
- ①ミニマムな内容
- ②各教育事項における具体的実習内容が充実
- ③各教育事項における発展的な具体的実習内容が充実

### 個別実習プログラム

- そのまま（調整不能）
- 各教育事項における具体的実習内容を取捨選択
- 各教育事項で実施する具体的実習内容の段階を調整・取捨選択

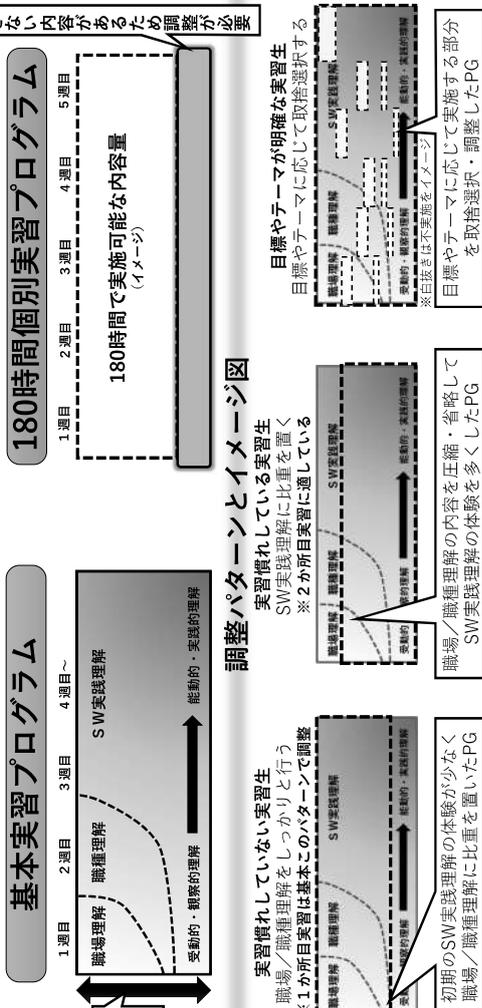
# 基本PGと180時間個別PGとの関係性

## ① 基本PGの具体的実習内容がミニマムな場合



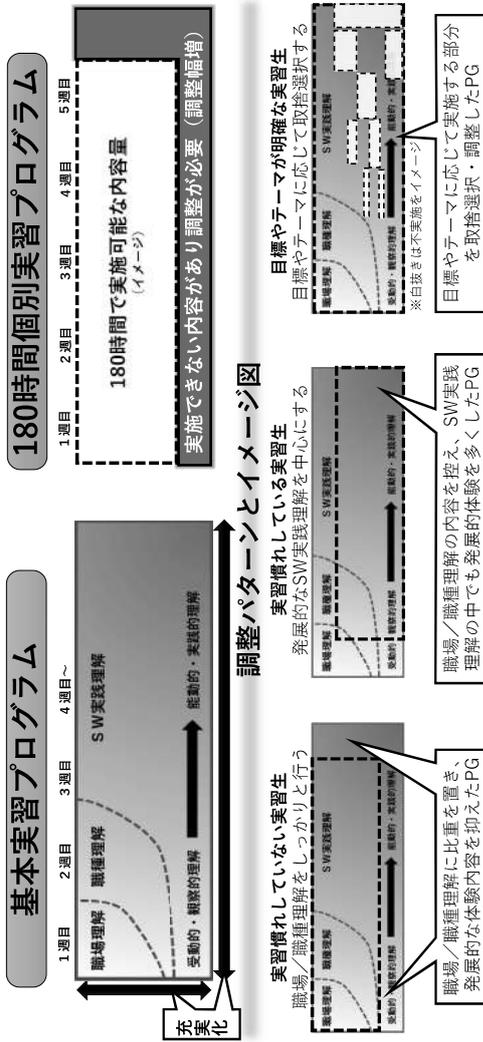
# 基本PGと180時間個別PGとの関係性

## ② 基本PGの各教育事項における具体的実習内容が充実している場合



## 基本PGと180時間個別PGとの関係性

③ 基本PGの各教育事項における発展的な具体的実習内容の段階が充実している場合

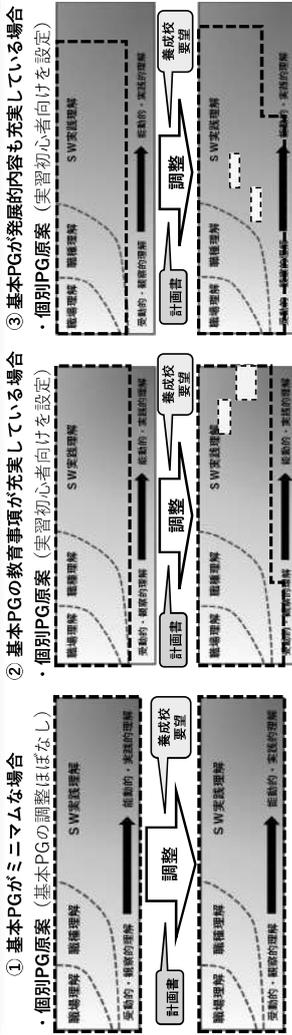


## 180時間 (1か所目) の個別PG作成

2. 個別PG原案の調整による個別PGの完成

個別PG原案ができたから、実習生の計画書や養成校教員からの要望を踏まえて個別PG原案の調整を行い、個別PGを完成させます。このプロセスにおいて実習指導者・実習生・養成校教員による三者協議を行います (※三者が一堂に会して協議を行う場合もあれば、直接三者が集まるのではなく電話やメール等を用いて間接的に協議を行う場合もある)。個別PG原案は事前訪問時に、個別PG完成版は実習初日までに実習生に渡しましょう。

### 180時間 (1か所目) の個別PG原案から完成版作成のイメージ



## 180時間 (1か所目) の個別PG作成

以上が180時間 (1か所目) の個別PG作成の手順です。最後に180時間 (1か所目) の個別PG作成に向けたヒントを確認しましょう。

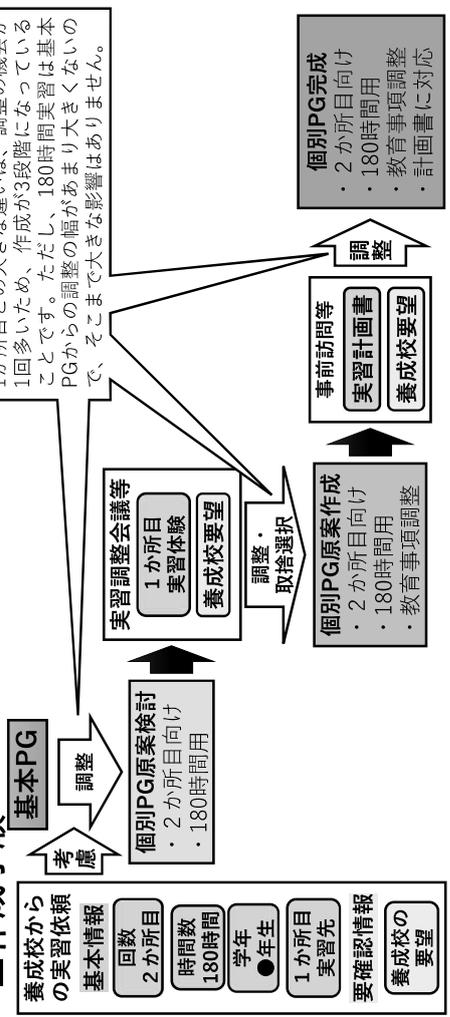
### 180時間 (1か所目) の個別PG作成に向けたヒント

- ・ 基本的に個別PG原案は“実習初心者向け”の内容で作成する (⇒一度作成できれば他の実習生の原案としても使用できます)
- ・ 2か所目の実習先の情報の有無に関わらず、できるだけ教育事項を網羅的に体験できるプログラム作成を心掛ける (⇒2か所目は60時間のため、180時間1か所目にてできる限りの教育事項を含める)
- ・ ある意味、180時間 (1か所目) 実習の場合、60時間 (2か所目) 実習が未体験の教育事項を実施できるように調整する役割を担っていると考える (⇒養成校によって具体的な要望がある場合が対応する)

## 180時間 (2か所目) の個別PG作成

次に180時間実習 (2か所目) の個別PG作成を確認します。

### 作成手順



## 180時間（2か所目）の個別PG作成

### 1. 基本PGからの調整による個別PG原案検討

養成校から依頼があり実習の基本情報を確認した際に180時間（2か所目）だった場合、すぐに個別PG原案を作成するのは難しいかもしれません。その理由として、60時間（1か所目）実習における実習生の実習慣れや体験内容を確認した後でなければ、作成した原案の適切性を判断できないということが挙げられます。

そのため、2か所目の実習では1か所目と異なり、実習調整会議等を通して実習生の1か所目での実習態度や体験内容が確認できるまでは、個別PG原案の検討に留めることが無難です。具体的にできることとしては、個別プログラミングシート（180時間用）を準備することと、実習受入期間に実習施設で体験できる内容を確認する程度です。

**Q. 180時間（2か所目）が分かった時点で「実習慣れしている実習生向け」の180時間個別PGを原案として準備してはどうか？**

**A. あり得ますが、60時間（1か所目）実習を終えたからといって実習生が「実習慣れしている」と考えることには慎重になる必要があります。1か所目実習の学びや体験に対する実習生自身の主観的な評価も勘案していく視点が重要です。**

## 180時間（2か所目）の個別PG作成

以上が180時間（2か所目）の個別PG作成の手順です。最後に180時間（2か所目）の個別PG作成に向けたヒントを確認しましょう。

### 180時間（2か所目）の個別PG作成のヒント

- ・2か所目という理由だけで実習経験者向けを準備することは避ける（⇒実習経験者向けPGも一度準備したら他実習生にも活用できるものの扱いは慎重に）
- ・1か所目の実習先の体験を踏まえて、教育事項ごとの体験量を調整して個別PGを作成するが、実習中には柔軟に対応することを忘れずに（⇒1か所目の実習生の情報が2か所目も当てはまるかはやってみないと分からない）
- ・基本PGがミニマムな場合、180時間（2か所目）に適した調整ができない可能性があるため、基本PGの充実化を図ることが必要（実習生の緊張感が強い場合等、基本PGがミニマムでも問題ないこともある）

## 180時間（2か所目）の個別PG作成

### 2. 基本PGからの調整・取捨選択による個別PG原案作成

実習調整会議等で実習生の1か所目における実習慣れや体験内容が確認できたら、それを踏まえて個別PG原案を作成します。

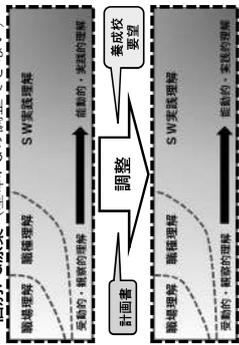
### 3. 個別PG原案の調整による個別PGの完成

実習生の計画書や養成校教員の要望を踏まえて原案を調整し、個別PGを完成させます。

#### 180時間（2か所目）の個別PG原案から完成版作成のイメージ図

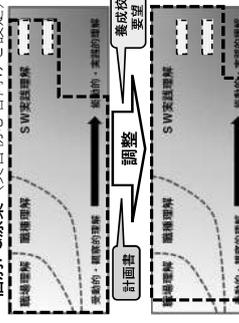
##### ① 基本PGがミニマムな場合（要注意）

・個別PG原案（基本PGの調整できない）



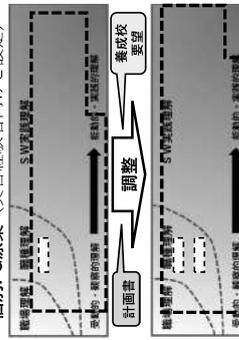
##### ② 実習生の緊張感が高い場合

・個別PG原案（実習初心者向けを設定）



##### ③ 実習生がとてもしやすい場合

・個別PG原案（実習経験者向けを設定）



## 60時間の個別PG作成

60時間実習の個別プログラミングシートを確認してみましょう。

ソーシャルワーク実習 個別実習プログラム（60時間用：概ね60時間～90時間） プログラムシート（案） 様式

実習施設名:	実習指導者氏名:	実習指導者職名:	実習指導者所属:	実習期間:	実習回数:	実習時間:	実習開始日:	実習終了日:	他:
学号:	学年:	実習回:	実習時間:	実習開始日:	実習終了日:	実習時間:	実習開始日:	実習終了日:	他:

このシートは、実習生が60時間の個別実習を行う際に使用するものです。シートには、実習の目的、内容、評価方法などが記載されています。

180時間用プログラムと同様に、60時間用プログラムも作成する必要があります。ただし、60時間用プログラムは、180時間用プログラムよりも、実習の体験量や学習の深さを調整する必要があります。

60時間実習は、180時間実習よりも、実習の体験量や学習の深さを調整する必要があります。そのため、60時間用プログラムを作成する際には、180時間用プログラムよりも、実習の体験量や学習の深さを調整する必要があります。

60時間実習は、180時間実習よりも、実習の体験量や学習の深さを調整する必要があります。そのため、60時間用プログラムを作成する際には、180時間用プログラムよりも、実習の体験量や学習の深さを調整する必要があります。